



2023 年7月

栃木県テニス協会 理事長 吉井正光

TTA レポート(No.126)

暑い日が続きます。テニス愛好の方々は、猛暑などを克服して元気にプレイをなさっているのではないのでしょうか。

先日「関東実業団対抗トーナメント・ビジネスパル」を栃木県総合運動公園テニスコートで開催しました。日程は7月8日土曜日から7月9日日曜日までの2日間です。

関東地区の予選で好成績を収めた男子20チーム、女子12チームが集い、全国の切符をかけて熱戦を繰り広げました。結果はホームページに掲載しているのでここでは割愛しますが、全国の切符を手にしたチームは、関東を代表していることを胸に刻んで戦ってきて欲しいと思います。

最近、世界の大会では選手の行いが何かと取り沙汰されています。ラケットを粗末に扱うなどあってはならないことです。自分がテニスを始めて間もないころ、若気の至りでラケットを放り投げたことがありました。当然、先輩から激しく叱責されました。何十年前の出来事は今でも鮮明に記憶しています。できれば消し去りたい出来事ですが、自分の中には厳然たる事実として残り続けています。

県の大会でこうした出来事に遭遇したことはありませんが、ちょっと気になることはあります。気持ちは良く分かります。しかし、それをやってはいけません。いくらテニスが上手くても人として尊敬されなくては何の価値もありません。

随分前の事です、審判講習会に出席した時、講師から「いい選手の条件とは何か」と問われた時、自分に中で答えを探していたところ、“GOOD LOSER”であること。という答えが示されました。“GOOD LOSER”直訳すれば良い敗者となりますが、真意は潔く負けを認め勝者を称えることが出来ることだと解説されました。なかなか出来る事ではありません。負けたら悔しくて何かを蹴飛ばしたくなります。繰り返しになりますが、それはダメです。

栃木県の大会で問題視される出来事が起こらないよう願うばかりです。

最後に、この TTA レポートは不定期的に更新していきますのでご了承ください。

